

平成26年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	読書活動と意欲の関連についての一考察 —第59回学校読書調査の分析結果の謎—
------	---

研究代表者

氏名 腰越 滋	所属 教育学部 教育学講座	職名 准教授
------------	------------------	-----------

研究分担者

氏名	所属	職名

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度)

本研究は、公益社団法人全国SLA(学校図書館協議会)が、毎日新聞社と共に毎年実施している「学校読書調査」の第59回調査の分析結果を基に、子どもの読書活動と意欲との関連について考究することを目的として実施された。

N I Y E(国立青少年教育振興機構)の研究グループによる先行研究では、修学前から中学時代までに読書活動が多い高校生・中学生ほど、「未来志向」・「自己肯定」・「意欲・関心」などの現在の意識・能力が高いことが示されたが、この傾向がSLA第59回調査 dataにおいても確認されるのかを検証した。即ち「読書をすればするほどに、子どもたちの論理的思考力はもとより、(意欲を含む)意識・能力が確実に上向くのか」、「読書をする子は、本当に意欲的で前向きになるのか」等を、再考してみた。検証の結果、得られた知見は、以下の8点に纏められる。

- ① 学習プラテイク(慣習行動)たる「実験\_調査\_執筆の意欲」因子は、「本\_雑誌\_漫画の選好」因子と、「5月1ヶ月間の読書冊数(Q1.)」観測変数とに影響を及ぼす。特にパス係数値にも注目すると、「学習習慣が身につけている児童・生徒は、本を読む傾向にある」という常識的知見が、確認されたと考えられる。
- ② 「最後までやり遂げる精神」因子(or潜在変数)から「5月1ヶ月間の読書冊数(Q1.)」(観測変数)へのパス係数値はマイナスであり、意欲・インセンティブのようなものは、読書行動には寄与していない。
- ③ 多母集団の同時分析を用いて、この傾向が小学生以降でも続くかを診たところ、中学生・高校生と長じては変わることはなく、パス係数値はマイナスのままであることが分かり、「謎」が残ったままである。
- ④ 「Q1 読書冊数(5月1ヶ月間)」観測変数 から「最後まで、やり遂げる精神」因子 へのパス係数値は、小学生よりも中学生で高く、「読書をする子は、意欲も高い」という傾向が強化される。ただ高校生になると、係数値がやや下がっており、長じると共に読書量に比例して意欲が高まる傾向は持続しているわけではない。
- ⑤ 「実験・調査・執筆の意欲」因子 から「Q1 読書冊数(5月1ヶ月間)」観測変数 へのパスは、長じるに従ってパス係数値が徐々に小さくなる。ここからは、小学段階では学習習慣が読書習慣を規定するものの、中・高と長ずるにつれて、その傾向が相対的には弱まるのが窺える。
- ⑥ 小学生と中学生とでは、「Q1 読書冊数(5月1ヶ月間)」から「最後まで、やり遂げる精神」へのパスの関係、「実験・調査・執筆の意欲」から「Q1 読書冊数(5月1ヶ月間)」へのパスの関係が、有意な差異を示した。これに対して、「最後まで、やり遂げる精神」から「Q1 読書冊数(5月1ヶ月間)」へのパスの関係は、非有意となった。
- ⑦ 小学生と高校生では、「Q1 読書冊数(5月1ヶ月間)」から「最後まで、やり遂げる精神」へのパスの関係、「実験・調査・執筆の意欲」から「Q1 読書冊数(5月1ヶ月間)」へのパスの関係、「最後まで、やり遂げる精神」から「Q1 読書冊数(5月1ヶ月間)」へのパスの関係、3つとも全てにおいて有意な差異が確認される。
- ⑧ 中学生と高校生では、「実験・調査・執筆の意欲」から「Q1 読書冊数(5月1ヶ月間)」へのパスの関係のみに、0.1%水準有意の差異が認められる。残りの2組、即ち「Q1 読書冊数(5月1ヶ月間)」から「最後まで、やり遂げる精神」へのパスの関係、「最後まで、やり遂げる精神」から「Q1 読書冊数(5月1ヶ月間)」へのパスの関係は、非有意であった。ここから、中・高生の間では、学習プラテイクと読書との間のみ、統計的有意差が認められることになり、中学生では学習習慣のある生徒が本を読む傾向があるが、高校生では学習習慣があっても、それが中学生ほど読書行動に結びつくわけではないということが、統計的に示唆される。

## 研究成果発表方法

[発表論文名(口頭発表を含む)、氏名、学会誌等名(投稿中・投稿予定・執筆中)を記入する。]

※本経費を用いて、報告書(冊子等)を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。

なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。

今回の研究成果知見を元に、下記学会大会にて学会報告を行った。

\* 腰越 滋,「読書活動と意欲の関連についての一考察 - 第59回 学校読書調査の分析結果の謎 -」,平成26(2014)年9月13日,『日本教育社会学会 第66回大会発表要旨集録(愛媛大学・松山大学)』,pp.254~255.

なお論文投稿については、現在投稿媒体を検討しており、鋭意取組中である。